

障害者支援施設 鹿野第二かちみ園

1 基本方針

様々な障がい特性を理解し、その特性に対する専門性を高めるとともに、一人ひとりの個性を尊重することで、利用者が健やかにそして自らの意思をもって自分らしい生活を営むことができるように援助していく。

また、社会参加を促進するとともに、地域社会に開かれた施設運営を目指す。

2 利用者の状況（令和5年3月31日現在）

(1) 入所者状況

(人)

利用人数			前年度末利用者数	令和４年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数	
				入所人員	退所人員	退所理由別									
区 分	定員	地域移行				家庭復帰	施設移管	契約解除 (入院等)	死亡						
		G H	アパート等												
生活介護			60	70	2	4	0	0	0	1	2	1	16,119	99.9%	68
施設入所支援			60	60	2	3	0	0	0	1	2	0	21,004	95.9%	59
3年度	生活介護	4-12月	70	72	1	3	0	0	0	0	1	2	12,320	86.7%	—
		1-3月	60	—	0	0	0	0	0	0	0	0	3,919	98.9%	70
	施設入支援	4-12月	70	63	0	3	0	0	0	0	1	2	15,865	82.4%	—
		1-3月	60	—	0	0	0	0	0	0	0	0	5,109	94.6%	60

(2) 障害支援区分

①生活介護

(人)

性別	障 害 支 援 区 分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	1	4	12	19	36
女性	0	0	0	0	1	14	17	32
計	0	0	0	1	5	26	36	68

②施設入所支援

(人)

性別	障 害 支 援 区 分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	1	3	11	17	32
女性	0	0	0	0	0	10	17	27
計	0	0	0	1	3	21	34	59

3 事業の実施状況

(1) 権利擁護と意思決定支援

利用者の尊厳を守るため、全職員対象に「権利擁護・障がい者虐待防止研修」を開催したり、虐待の要因にもなり得る職員のメンタルヘルスについてセルフケアやラインケアの研修を行った。

成年後見制度については昨年度申請された方1名に後見人が選任される。制度の案内を4家族に行った。

意思決定に配慮し個別支援計画の作成など本人への伝え方の工夫をしている。

意思表示が困難な方に対しては、絵カード交換式コミュニケーションシステムの手法を使った意思の表出に取り組んでいる。

(2) 利用者支援の専門性の向上

ア 行動障がいのある方への専門的支援については、毎月1回行動障がい部会によるスーパー

ビジョンを開催するとともに、3ヶ月に1回外部のスーパーバイザーを招聘し、その助言を参考に、強度行動障がいがある方や自閉症及び関連領域のコミュニケーション等の障がいを持つ方の課題行動の軽減や自立に向けた支援方法の検討を行った。今年度は太田ステージによる評価に基づいたワークシステムの見直しを実施し、新しいワーク課題を提供した。

また強度行動障害支援者養成研修にも基礎4名、実践3名が参加し専門性を高めた。

イ 身体障がいやフレイル状態の方への専門的支援は理学療法士がリハビリテーション計画を作成し、エアロバイク、振動マシン、滑車などの運動器具を使用し個々に応じた機能訓練、生活リハビリ、温熱療法等を行い、随時見直ししながら利用者のフレイル予防や運動不足の解消に取り組んでいる。

骨粗鬆症対策としては効果が実証されているビタミンDを強化した食品の摂取を推奨し、日中活動の中で日光浴の時間を設け、定期的に骨密度の測定を継続して行っている。

ウ 精神障がいのある方への専門的支援については、定期的な精神科医の往診時に、医療相談しながら障がい特性に応じた支援に努めた。

エ その他の支援

アート活動においては、新型コロナウイルス感染の対応のため、とりぎん文化会館での「いんどり作品展（8/24～9/4）」は中止し、中電ふれあいホールでの作品展（2/16～20）1回の個展開催のみとなった。しかし、新たな取り組みとして、フクシ×アートWEEKs2022（10/29～11/27）に参画し、鳥取駅前商店街の活性化に協力した。

また、アーカイブ美術館へ過去のあいサポート・アートとっとり受賞作品等を提供し、障がい者アートの伝播に寄与した。

今年も鳥取県主催の「あいサポート・アートとっとり展」へ出展し金賞等多数受賞した。

その他、音楽療法、各種アクティビティ、おやつ作りなどのユニット活動をとおして、日々の生活が単調にならないように心掛けた。

（3）施設における新しい生活様式の推進

コロナ禍で行動を制限される中でも楽しみのある生活ができるよう、毎月自治会等が中心となってご利用者の希望を取り入れた様々なイベントを開催した。

特に地区納涼祭の代わりに園内納涼祭やゲーム大会を行ったり、福祉団体による球技大会や地区運動会の代わりに、ユニバーサルスポーツセンター「ノバリア」での運動会や園内ホールでの障がい者スポレクなどを行った。また、ユニット内に設けたゲームルームでスロットマシンやミニ卓球などを楽しんでもらった。

（4）職員の専門性の向上とメンタルヘルスの推進

ア OJT 新任職員に対してはオリエンテーションで福祉職員として基本となる「権利擁護、虐待防止」をはじめ「個別支援計画」や「強度行動障がい」の研修を行い、その他年間を通して「コロナゾーニング訓練」「救命講習」「感染症予防」「移乗と歩行」「姿勢と肩甲骨・歩行」「メンタルヘルスケア」「ハラスメント」等多彩な研修を独自に開催し、専門性の向上とメンタルヘルスの推進を目指した。

イ OFF-JT 「虐待防止研修」「サビ管研修」「強度行動障がい支援者養成研修」等、専門性に直結するような研修を優先しながら可能な限り参加した。

ウ SDS 資格取得の推奨に努め各種情報を提供し取得を促している。少数ではあるが、国家資格の取得を目指し学びを続け、社会福祉士1名、介護福祉士1名の合格者があった。

エ チューター制度 中途採用職員2名を対象に実施。先輩職員から助言を受け、定期的に振り返りを行うことで必要な業務を早めに覚える事ができた。また業務に対する悩み等の相談もしやすく、職場への定着に効果があった。

（5）経営改善・基盤の確立

ア 産休・育児休暇、離職職員が相次ぎ慢性的に支援員の欠員状態が続く中、新型コロナウイルスクラスター対応や職員の出勤停止なども重なり、支援の質を維持するために何度も体制の見直しを行い、多職種協働で工夫しながら取り組んだ。

イ 稼働率

・生活介護（60名定員）99.9%、施設入所支援（60名定員）95.9%

60名定員となり、介護報酬単価の増や重度障害者支援加算の新規取得で増収となったが、病気、怪我による長期間入院される方があり、稼働率が目標を下回ってしまった。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取社会福祉専門学校	11月	1人	5人
	12月	2人	6人
計		3人	11人

(2) ボランティアの受入実績

鹿野町日赤奉仕団（繕い物）、職員ＯＢ（草刈り） [延べ44人]

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 3名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	12	131	9	89
日中一時支援事業	0	0	0	0